



知る、考える、進めるために。

除染情報プラザ

福島県

環境省

福島再生

REPORT

平成25年5月30日

43

毎週、福島を除染活動状況をお伝えします。

田村市

避難指示解除準備区域で
本格的に営農再開。
農家のつくる喜びを復興への一步に。



ひとめぼれの苗を持つ坪井久夫さん（右）と青木良さん。「今年是一部の農家がチャレンジされますが、坪井さんたちの営農再開が地元の勇気につながります」と青木さん。



県農業総合センターで野菜の放射能汚染レベルをモニタリング検査する分析課の職員。



JAたむら農産物直売所・ふあせるたむら。同地域の米や野菜が再び並ぶ時も近い。

田村市都路町の一部は、昨年4月に警戒区域から避難指示解除準備区域に再編され、7月から除染特別地域として国による除染が進められてきました。

今年に入り、田村市に明るいニュースが届きました。政府が、この避難指示解除準備区域で、本格的な稲の作付けを容認することを発表したのです。

この地域では、大半の農地の除染を深耕で行いました。耕土深が浅いため、なるべく石を掘り起こさないよう配慮した方法です。田村市は昨年来、農家に安心して作付けしてもらうことを目指し、除染後の農地で、野菜10品目の試験栽培と稲の試験作付けを実施してきました。その結果、試験期間中に農作物の放射性セシウム検出値が食品の基準値を大幅に下回りました。県の農林水産部園芸課の安部充副課長兼主任主査は、「田村市の営農再開は、農家の協力を得て検査を積極的に実施したことが大

きい。他自治体の出荷制限解除につながるモデル事例です」と評価しています。

田村市役所産業部農林課・門馬吉喜課長は、「出荷に向けた野菜と米の生産が認められたことは、生活基盤を取り戻す過程で大きな前進です。避難指示解除準備区域の除染は、ほぼ終了しました。生産と生活の両方の場の安全が確認できてはじめて、帰郷への気持ちも高まると思います」と語りました。

この5月中旬、同市合子地区の農家・坪井久夫さんは、JAたむら東部営農生活事業所・青木良さんとともに田植えに励んでいました。坪井さんは「作付け再開が決まって念願叶った、という思いです。仮設住宅から通いながら農作業をすることになりますが、今秋にはトマトなどの野菜の作付けにも挑戦したい」と、晴天の下で喜びを表しました。